

2	一宮	一宮市立北部中学校	キトウ ヒロユキ
			名前 鬼頭 宏幸
分科会番号	特	分科会名	「特別の教科」道徳 道徳分科会

## 「追求」と「対話」を重視した道徳教育の創造 ～多面的・多角的に考えることができる生徒の育成を目指して～

### 1 主題設定の理由

#### (1) 研究の背景

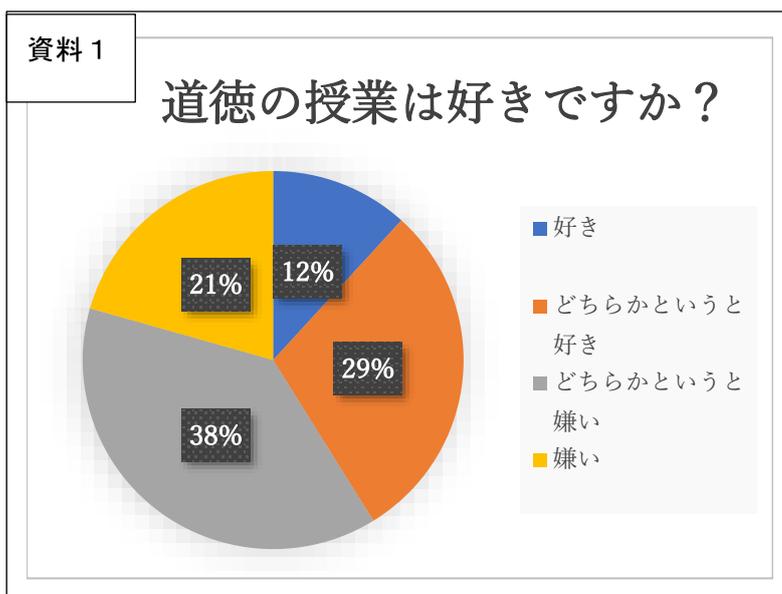
中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説には、「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」、「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」との答申を踏まえ、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るものであると述べている。これは、様々な分野でグローバル化が進展している中、予測不可能な時代や社会をよりよく生きる子どもたちには、多様な価値観を持つ人々と協働しながら、課題を解決する力が求められていることに起因していると考えられる。

本校では、道徳的価値を追求する活動を通して、多面的・多角的に考える力や自己を見つめよりよい生き方を探求する力を身につけさせることを目標としている。また、知・徳・体の調和のとれた、魅力ある生徒を育て上げるために、ものごとを多面的・多角的に考えることができる生徒の育成を目指し、本研究を進めた。

#### (2) 生徒の実態

現在指導している 3 年生の生徒は、答えが一つに決まっている明確な問題や課題については自信をもって解答することができる生徒が多く見られる。しかし、答えが定かではない問題や課題に対しては、思考が停止してしまう生徒も

少なくない。4 月に生徒を対象にアンケートを実施し、「道徳の授業は好きですか」という



質問をしたところ、約 40%の生徒は、「好き」、もしくは「どちらかという好き」と回答した（資料 1）。その理由を書かせたところ、「いろいろな話を読むことができる」といった理由が見られた。また、約 60%の生徒が「嫌い」もしくは「どちらかという嫌い」と回答した。その理由を書かせたところ、「答えが一つに決まっていない」「自分の答えを発表するのが恥ずかしい」といった理由が見られた。道徳の授業において、生徒の考えは様々であり、生徒によって答えや考えは複数存在することに苦手意識を持っている生徒が多いのではないかと考えた。

### (3) 生徒の実態を通して

4月に生徒を対象に行ったアンケートの結果を見て、他の生徒の考えと異なることを嫌う生徒が多いのはなぜかと考えた。そこで、生徒の考え方は一つだけではなく、様々であることを理解させ、物事を多面的・多角的に考えることが重要であると考えた。

### (4) 目指す生徒像

以上のことから、本研究で期待する生徒の姿を以下のように設定した。

追求や対話を生かした学びを通して、物事を多面的・多角的に考えることができ、道徳的価値を高めることができる生徒

本研究では、多面的・多角的は以下のように定義することとした。

多面的…自分の考えを持つとともに、周りの生徒たちと考えを共有し、考えを認めあう。

多角的…自分で様々な立場からものごとを考え、それぞれの本質を理解し、よりよい考えを選択する力を身につける。

## 2 研究の仮説

目指す生徒像へと迫るために、本研究の仮説を次のように設定した。

### 仮説

授業時に仲間の考えを共有することにより、多面的・多角的な考え方を持つことができるだろう。

### 3 研究の手立ての計画

#### (1) ワークシートの工夫

「自分の考え」を書く欄と「仲間の考え」を書く欄を作り、自分の考えを記述した後に、周りの生徒と考えを共有する時間を設定する（資料 2）。主発問に対する自分の考えを「自分の考え」の欄にまとめる。その後、周りの生徒

資料 2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">自分の考え</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">仲間の考え</div>		連絡ワークシート 日付 ( / / ) タイトル ー ー
------	---	--	--

と考えを共有し、「仲間の考え」の欄に記入させる。その後、自分の考えと仲間の考えを

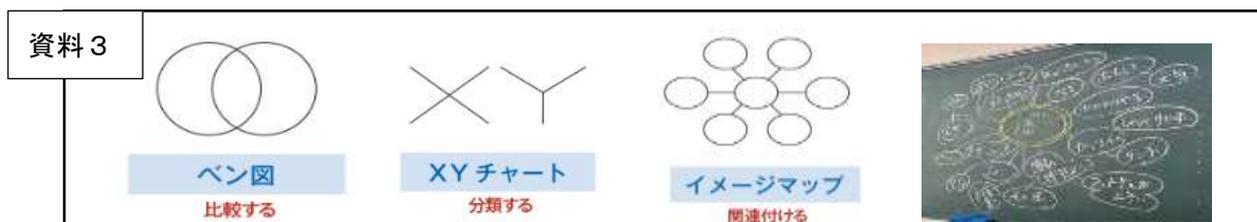
比較して気づいたことや仲間の考えから学んだことを左側の空欄に書かせる。このような活動をすることで、一部の発表する生徒の考えだけではなく、できるだけ多くの考えを共有することができるのではないかと考えた。

### (2) 名前マグネットを黒板に貼ることによる視覚化

生徒への事前アンケートにより、自分の考えを全体場で発表することが難しい生徒が多いということが分かった。そのため、自分の考えを視覚的に表現しやすくするために、考えを述べる際に、どのくらいの割合でそのように思っているのかを数直線上で示すことができるようにする。その際、自分の名前を記載したマグネットを用意し、数直線上にその名前マグネットを貼りつけるようにする。

### (3) 思考ツールを使った可視化

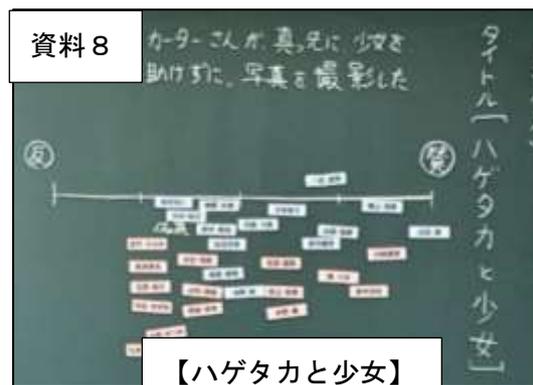
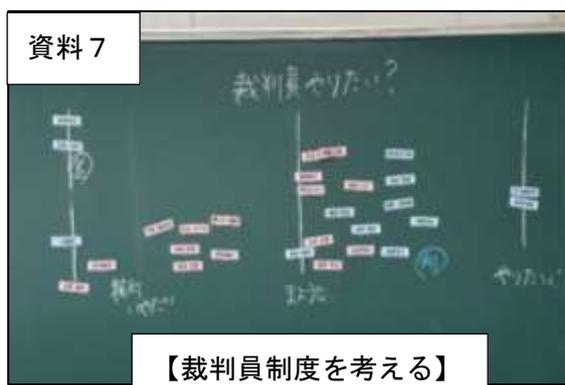
ペア活動やグループ活動を通して出た考えを可視化し、整理した情報を周りの生徒と共有することで、多面的・多角的にとらえることができる。また、その記載した思考ツールを周りの生徒と比較することを通して、生徒はさらに自分の考えを深めることができると考えた(資料3)。





う発問をした。そこで、「裁判員をやりたい」か「やりたくない」だけではなく、迷っているという中間の位置も用意し、どの立場にいるかを黒板に示させた。資料8は、【ハゲタカと少女】の教材のものである。登場人物のカーターさんの行動について賛成か反対かを黒板に示させた。

また、なぜその位置に名前マグネットを置いたのかをワークシートに理由を書かせ、全体場で発表させた。他の生徒の考えを聞いた後、再度、考えを聞いたときに最初の考えを変えたいという生徒が何人もいて、考えの変容を見ることができた。



### (3) 思考ツールを使った板書の分類化について

発問に対する考えや理由を以下のように、ウェビングマップを用いてまとめさせた(資料9、資料10)。資料9と資料10は、【裁判員制度を考える】の教材で、裁判員制度についての説明をし、裁判員が「いる」か、「いない」かをそれぞれの立場からウェビングマップを用いて、その理由を記載させたものである。自分の考えを書かせ、その後、周りの生徒と共有させた。裁判員制度の必要性について、「いる」か「いない」かだけではなく、それぞれの理由を考えさせた。その後、「いる」「いない」のそれぞれの理由を全体場で発表させ、考えを共有した。



### (4) ポートフォリオによる感想の変容について

授業で学んだことや感想を毎回の授業後に記載させた。書く際に、同じテーマであっても異なる観点に気づき記載することができるようになった生徒も多くいた(資料11)。

6/6	7/4	7/11
<p>ハダワレとノセ</p> <p>○今日の授業から学んだことを書きましょう</p> <p>相手にかんしうしない社会だね</p> <p>たのしいなと思う。相手にかんしうしな</p> <p>けぬ。悪口は消滅し、やばいこと</p> <p>少なくなると思う。そうすれば、自分の</p> <p>いも相手のいも守。ていけるよ。ないが</p> <p>と思う。自分を大切にするといい。つな</p> <p>が、ていやくもした。と思った。</p>	<p>いのちの花アロツェクト</p> <p>○今日の授業から学んだことを書きましょう</p> <p>命。と。ロゼマツトは言わねど。実際</p> <p>と。よく理解できなくて。あまのいんが</p> <p>多。い。と思う。た。命。通。じ。傷。つ。人。が</p> <p>多。い。い。思。う。から。だ。ら。う。が。あ。ま。の。い。ん。が</p> <p>静。材。が。い。て。痛。命。の。た。ま。を。守。ら。な。い。と</p> <p>だ。い。思。う。そ。う。し。て。命。に。つ。て。考。え。ら。る。よ。う</p> <p>に。な。る。よ。う。で。て。重。物。と。人。の。命。に。あ。ら。ま。を。い。け。な。い。と。思。う。</p>	<p>歩きスマホを止める必要があるか。</p> <p>○今日の授業から学んだことを書きましょう</p> <p>歩きスマホをしなければ無理。という</p> <p>場合もある。だから、自分以外のスマホ</p> <p>を。か。け。て。必。要。以。上。に。歩。き。ス。マ。ホ。を。行</p> <p>中。が。周。り。と。ぶ。つ。か。う。法。律。が。あ。ら。ま</p> <p>に。あ。ら。ま。結。局。受。け。つ。け。ら。れ。い。い。な。い。と</p> <p>人。の。命。持。た。な。ら。う。と。考。え。ら。る。よ。う</p>

道徳の授業

### 5 研究の成果と課題

#### (1) 研究の成果

年度当初に行った「道徳の授業は好きですか」というアンケートを7月に再度行ったところ、約60%の生徒が「好き」「どちらかというが好き」という結果となった。また、その理由を聞いたところ、「自分以外の生徒がどんな考えであるかを知ることが楽しい」「周りの生徒と多く話ができる」など前向きな考えが多く見られた一方、「友人と考えたことが同じではないと不安になる」などの考えも見られた。

ワークシートを工夫することや名前マグネットを使用することで多くの生徒が自分で考えを述べるだけでなく、周りの生徒の考えを意識し、一つの面からだけでなく、複数の視点から多面的・多角的に考察できるようになったのではないかと考えられる。

#### (2) 今後の課題

多面的・多角的に考えることができるようになった生徒が増えた一方で、以下に述べるような課題も出てきた。

- ・ 授業者である学年職員間での考えを交換する場の確保が難しい。
- ・ 7月に行ったアンケートで、生徒は周りの生徒と共有できたとアンケートで示していたが、どのくらい多面的・多角的に理解できたかの確認が難しい。

本研究は、多面的・多角的に考えることで、道徳的価値を高めるために実践したものであるが、まだ道徳的価値が高まったと評価することは難しい。今後の生徒たちの記述や言動に目を向け、評価していきたい。